

② ガン類を指標種とした重要地域(河川・湿原地域、里地里山・田園地域)

ガン類(本構想ではマガン及びヒシクイ)は、国際的な渡りを群で行う大型の水鳥であり、河川・湖沼及びその周囲の低地田園地域等における生物多様性の高さを指標する野生生物ということができる。

わが国におけるガン類の19世紀から近年までの変遷については、宮林泰彦編「ガン類渡来地目録 第1版」(雁を保護する会、1994年)によれば、ガン類は1946年まで全てが狩猟鳥であったが、その頃までには19世紀には数多く渡来していたことが知られるサカツラガン、ハクガンやシジュウカラガンは既にほとんど渡来しなくなってしまっていた。

1947年からはマガン及びヒシクイの2種が狩猟鳥に指定され、1970年の猟期までこの状態が続き、この間に全国のガン類の渡来数は推定約6万羽から約5千羽にまで急速に減少した。西南日本からガン類の姿は消滅していき、70年代はじめにはその渡来地の分布は現在と同様の範囲になっていたものと推定される。1971年にマガン及びヒシクイが狩猟鳥から外されて以降、徐々にわが国に越冬するマガン及びヒシクイはその個体数が回復している。この間に、宅地化や農耕地利用等の人為的要因により、明治・大正時代に存在した湿地面積の約61.1%が減少した(国土地理院、2002年)。

現在のガン類の主な渡来地については、宮林泰彦編「ガン類渡来地目録 第1版」(雁を保護する会、1994年)を参考とした。

ただし、同渡来地目録は、作成後10年以上が経過していることから、近年(平成15～18年度)の環境省「ガンガモ科鳥類の生息調査」の調査結果に示された観察羽数の多寡、呉地正行氏(雁を保護する会会長)の協力のもと、一定のチェックを行った。その際、同調査が毎年1月中旬に実施されており、北海道等における中継地として利用されている湖沼に関するガン類の渡来地としての重要性が適切に評価されないおそれがあることから、インターネット自然研究所の「全国ガン・カモ類飛来情報」(<http://www.jgoose.jp/>)に蓄積された観察データについても、適宜参照した。

以上のことをもとに、全国レベルでみたガン類の主な渡来地(案)として表3に示す地域を抽出した。

表3 全国レベルでみたガン類（マガン及びヒシクイ）の主な渡来地

地方	地域名	地方	地域名
北海道	サロベツ原野	首都圏	霞ヶ浦
	能取湖		
	湧沸湖	北陸地方	片野の鴨池
	コムケ湖		河北潟
	風蓮湖		呂知潟
	釧路湿原		九頭竜川流域福井平野
	霧多布	近畿圏	琵琶湖
	育素多沼		
	長節湖	中国地方	中海
	湧洞沼		
	生花苗沼	東北地方	宍道湖
	干勝川下流部		
	宮島沼		
	袋地沼		
	ウトナイ湖		
	弁天沼		
	厚真水田		
小川原湖			
廻堰大溜池			
狄ヶ館溜池			
花巻水田			
小友沼			
角助堤			
八郎潟			
伊豆沼・内沼			
蕪栗沼			
花山湖			
化女沼			
平筒沼			
長沼			
仙台平野北部水田地帯			
上池			
下池			
福島潟			
鳥屋野潟			
佐潟			
佐渡			
信濃川大河津分水			
朝日池			

出典：宮林泰彦編「ガン類渡来地目録 第1版」(雁を保護する会、1994年)、平成15～18年度「ガンガモ科鳥類の生息調査」調査結果、雁を保護する会の協力をもとに作成

全国レベルのエコ・ネットの現況図の検討に当たり、ネットワークの軸に相当するガン類の主な渡りルート(概念図)については、「平成14年度 自然環境保全の観点から要請される国土利用の指針性向上に関する調査 報告書」(国土交通省国土計画局、平成15年3月)においてガン類(マガン、ヒシクイ及びビコクガン)の主な渡りルートとして示されたライン・データがある。同渡りルート図は、雁を保護する会会長・呉地正行氏の協力・指導のもと、ガン類渡来地目録、地形図等の各種資料をもとに作成された。

上記報告書では、主な渡りルートとして、次の2つが分けて図化されている。

- ①現在ある程度の群の利用があり、保全・強化が望まれる主な渡りルート
- ②越冬地の放棄などにより現在ほとんど利用がないが、回復が望まれるルート

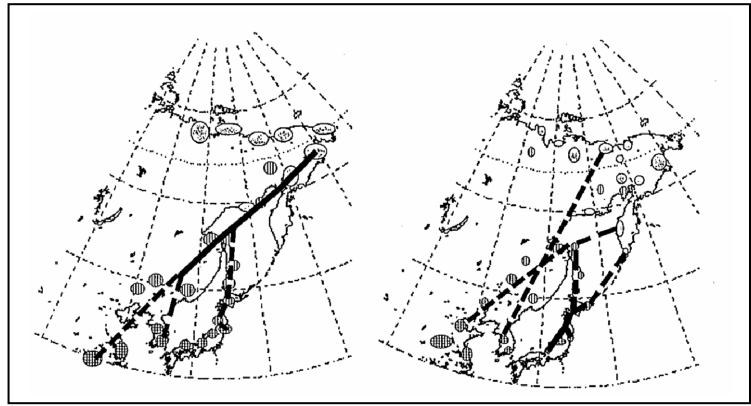
以上の検討をもとに、全国レベルでみたガン類の主な渡来地については表3、主な渡りルートについては上記報告書中の「①現在ある程度の群の利用があり、保全・強化が望まれる主な渡りルート」を、呉地正行氏の協力・指導のもと、マガン及びヒシクイの渡りルートへと一部修正したうえで利用し、ガン類を指標種とした重要地域(河川・湿原地域、里地里山・田園地域)として図13を作成した。

主に関係する生態系等のタイプ
 全国レベルでみた
 ガン類の主な渡来地
 渡りルート（概念図）

河川・湖沼・湿原、田園地域

●

→



マガン(左)、ヒシクイ(右)の渡りルート(破線は推定コース)

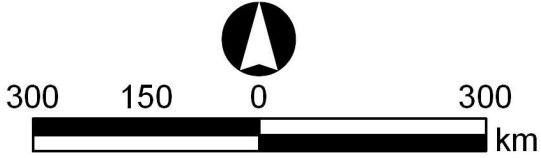
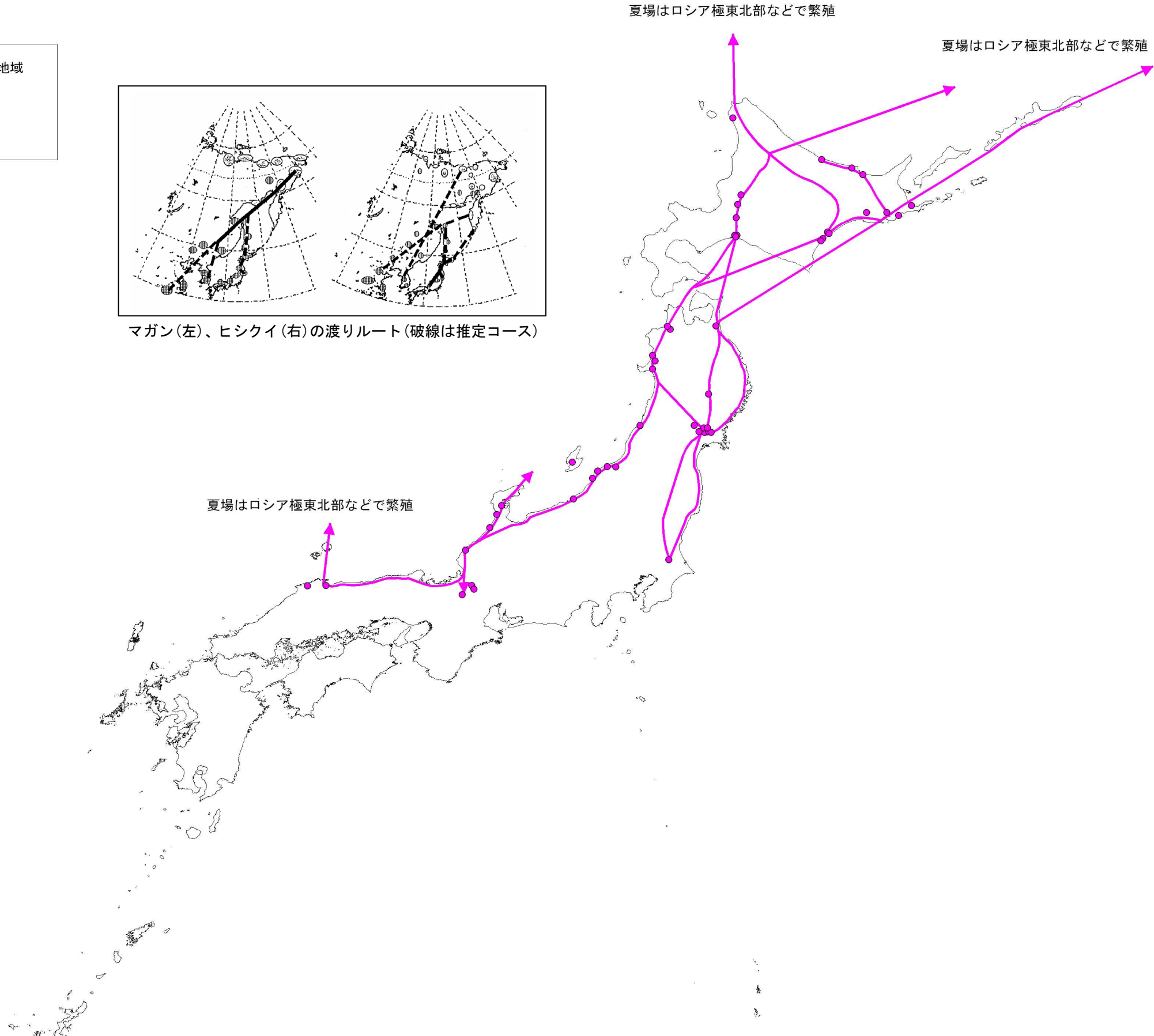


図13 ガン類を指標種とした重要地域（河川・湿原地域、里地里山・田園地域）
 出典：宮林泰彦編「ガン類渡来地目録 第1版」（雁を保護する会、1994年）、雁を保護する会・
 呉地正行氏の協力等をもとに作成